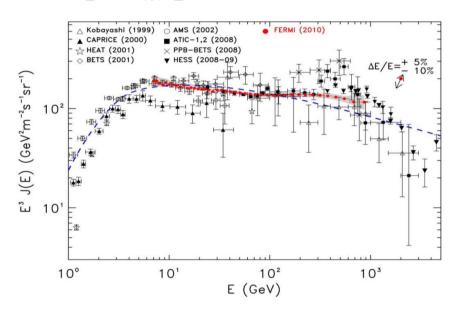
CALETによる電子観測

2013.8.22

赤池陽水

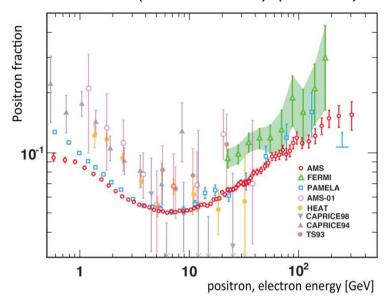
電子のエネルギースペクトル

電子 + 陽電子のエネルギースペクトル



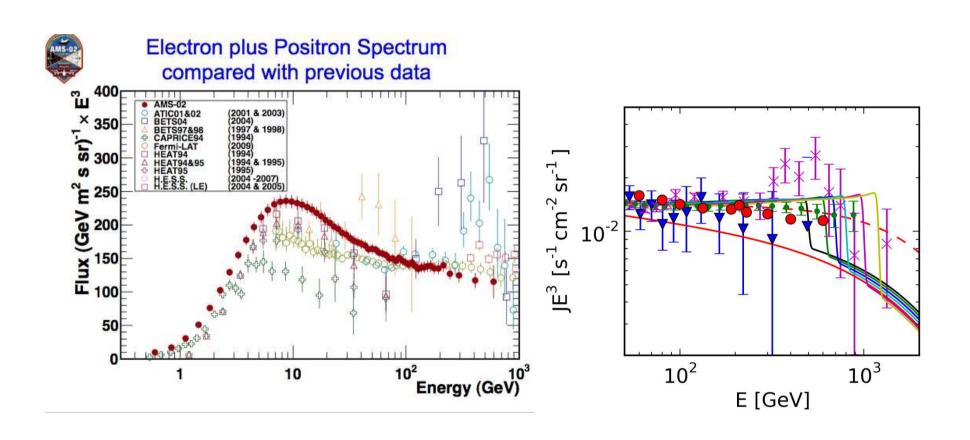
- 数100GeVの領域に標準的な伝播モデルからの過剰な成分がある
- ATIC, Fermi/LAT, HESSなどの各実験の観測結果には、統計誤差以上の差が存在する
- 電子の起源を探るためには、精確なエネルギースペクトルの導出が必要

陽電子 / (電子+陽電子) (AMS02)



- □ 10GeV以上で増大
- 陽電子が伝播中に生成されるモデルでは説明できない
- 陽電子の加速源が必要
 - 暗黒物質?
 - パルサー?

AMS-02による電子+陽電子のエネルギースペクトル

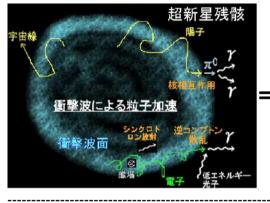


電子成分

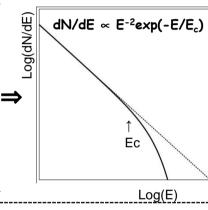
高エネルギー宇宙線電子・陽電子の観測は、 宇宙物理学における最大の謎である暗黒物質及び宇宙線加速源の解明につながる

宇宙物理的起源

- ・超新星残骸における衝撃波加速
- ・パルサー風星雲による加速



生成スペクトル (冪型関数+カットオフ)



素粒子物理的起源

暗黒物質の候補: WIMPの対消滅、崩壊 - $\chi \chi \rightarrow e^+ + e^-$

- **生成スペクトル (WIMPの種類に依存)** (i) 単一エネルギー: 電子・陽電子対直接生成(LKP)
- 一様分布:一様分布で崩壊する中間粒子を経由
- (iii) ダブルピーク: 双極的分布で崩壊する中間粒子 を経由(SUSY)

銀河内伝播過程

$$\frac{\partial}{\partial t} f\left(t, \varepsilon_{e}, \vec{x}\right) = D\left(\varepsilon_{e}\right) \nabla^{2} f + \frac{\partial}{\partial \varepsilon_{e}} \left[b\varepsilon_{e}^{2} f\right] + q\left(t, \varepsilon_{e}, \vec{x}\right)$$
 拡散項 エネルギー損失 ソース項

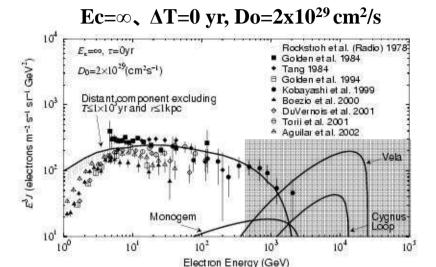
- シンクロトロン放射
- 逆コンプトン散乱



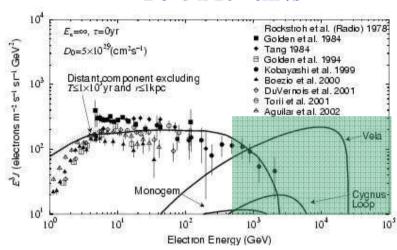
 $\mathcal{E}_{\mathrm{cut}}$

高エネルギー電子は若い 加速源からしか到達しえない

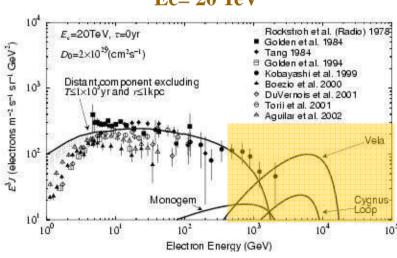
近傍加速源からの電子寄与のモデル依存性



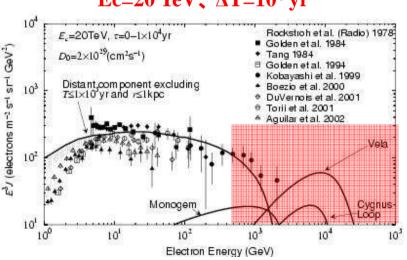
$Do=5 \times 10^{29} \text{ cm}^2/\text{s}$



Ec=20 TeV



Ec=20 TeV, $\Delta T=10^4$ vr



Kobayashi et al. 2004

電子観測における検出器の性能要求

電子観測の現状:

- 各観測結果に統計誤差だけでは説明できない差異
- TeV領域はほぼ未観測

電子観測の困難:

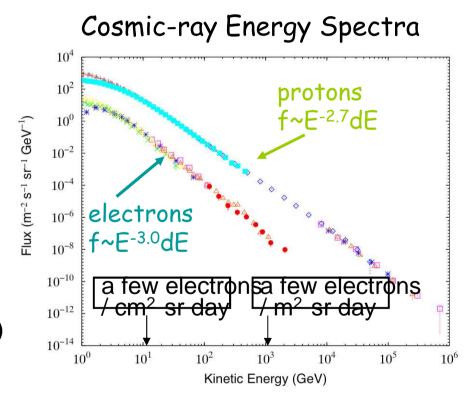
- Flux自体が希少
 - ~ 5 イベント / m²sr day (> 1TeV)
- 膨大な陽子バックグラウンド

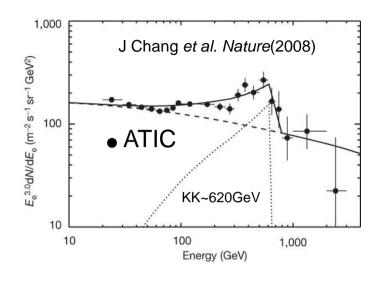
電子:陽子 = 1: 100 @10GeV

電子:陽子 = 1:1000 @1TeV

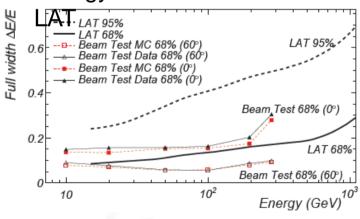
電子観測のための必須事項:

- 大きな検出器による長期間観測~270 m²sr day ⇒ 約1000例 (>1TeV)
- 強力な粒子識別能力 10⁵ @ TeV
- ■優れたエネルギー分解能 数% (数100GeV領域)

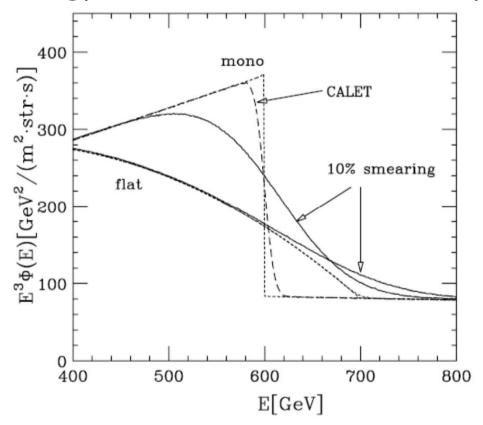








Energy Resolution vs. DM Sensitivity

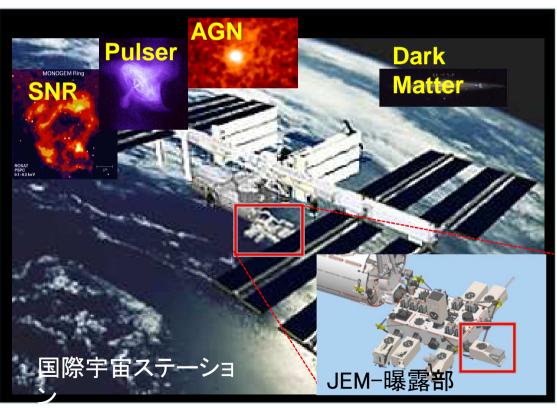


arXiv: 0812.4200[astro-ph] C.R.Chen et al.

CALET計画

CALET: CALorimetric Electron Telescope

国際宇宙ステーションにおける宇宙線観測計画 2014年打ち上げ予定 5年間の観測 日本を中心とするイタリア、アメリカとの共同実験

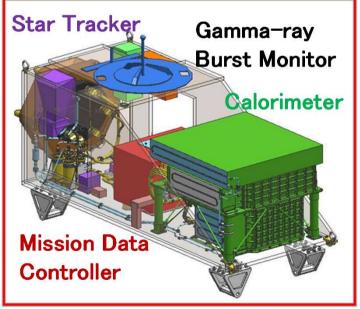


電子·陽電子: 1GeV ~ 20TeV 加速·伝播機構、暗黑物質、太陽磁気圏

ガンマ線: 10GeV~10TeV

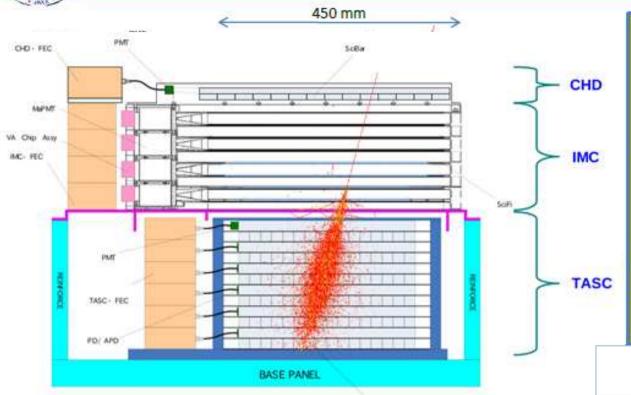
暗黒物質、 γ 線点源(SNR, Pulsar, AGN, etc.) 銀河内外拡散成分、 γ 線バースト

陽子·原子核: 数10GeV ~ 1000TeV 加速機構、銀河内伝播機構





カロリメータ概要

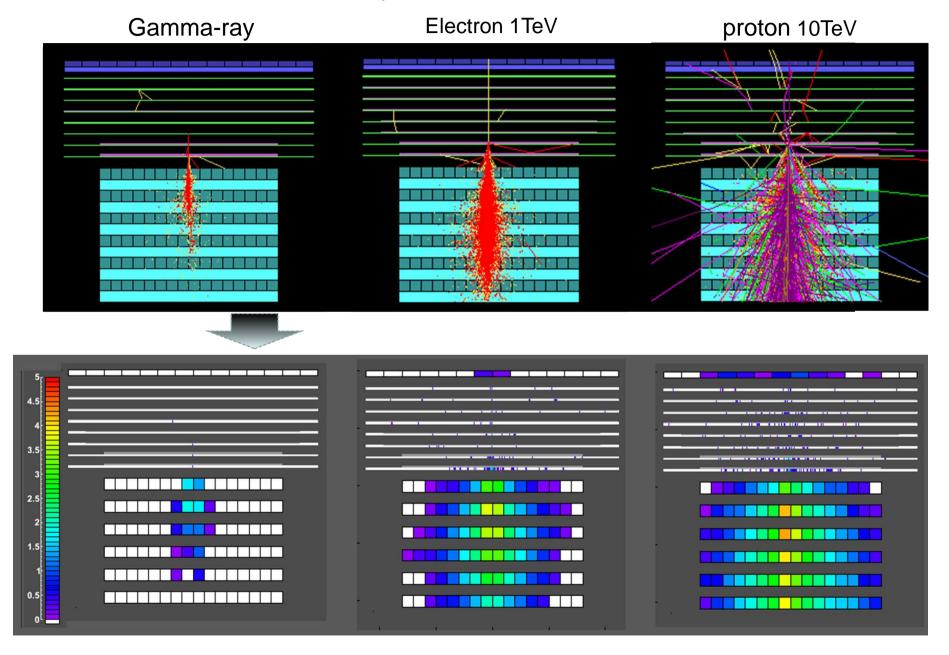


Expected Performance (from Simulations and/or Beam Tests)

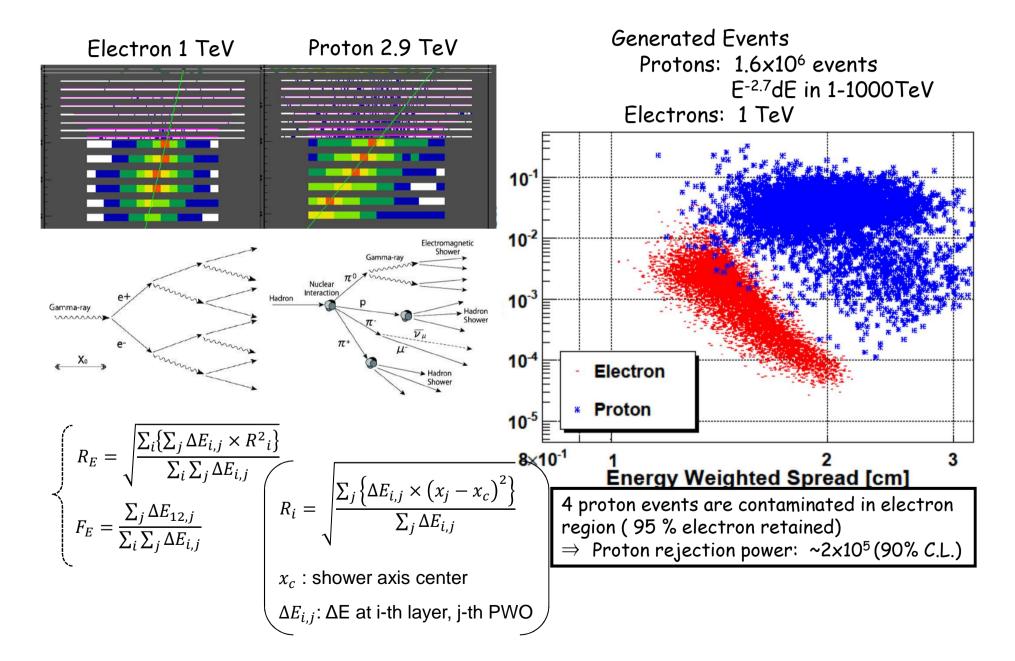
- SΩ:
 - 1200 cm²sr for electrons 1000 cm²sr for gamma-rays
- ΔE/E:
 - a few % (>10 GeV) for e,γ's ~30 % for protons
- e/p separation: 10-5
- Charge resolution: 0.15-0.3 e
- Angular resolution :
 - 0.24-0.76 deg. for gamma-rays

	CHD (Charge Detector)	IMC (Imaging Calorimeter)	TASC (Total Absorption Calorimeter)
Function	Charge Measurement (Z=1-40)	Arrival Direction, Particle ID	Energy Measurement, Particle ID
Sensor (+ Absorber)	Plastic Scintillator : 14 × 1 layer (x,y) Unit Size: 32mm x10mmx450mm	SciFi: 448 x 8 layers (x,y) = 7168 Unit size: 1mmsq x 448 mm Total thickness of Tungsten: 3 r.l.	PWO log: 16 x 6 layers (x,y)= 192 Unit size: 19mm x 20mm x 326mm Total Thickness of PWO: 27 r. l.
Readout	PMT+CSA	64 -anode PMT+ ASIC	APD/PD+CSA PMT+CSA (for Trigger)

検出イメージ



電子陽子識別



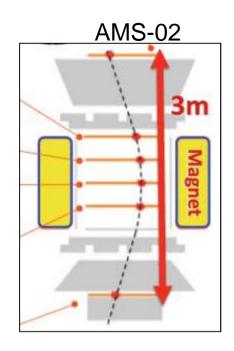
検出器の種類と粒子識別

- Magnet Spectrometer(PAMELA, AMS)
 - マグネットと、電磁カロリメータの組み合わせで粒子識別
 - ⇒ ΔR/Rは、BL2に依存

Pamela: MDR ~ 1TV ($S\Omega$ ~21cm²sr : < 500GeV)

AMS-02: MDR ~ 2TV

MDR: Maximum Detection Rigidity

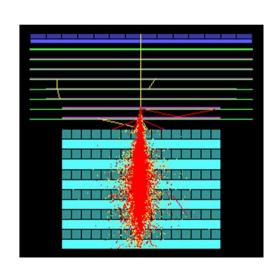


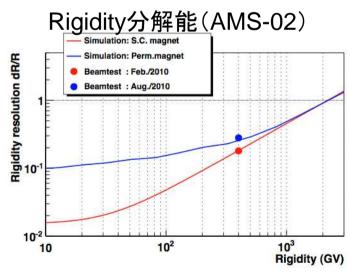
- Calorimeter(ATIC, Fermi, CALET)
 - シャワー形状で粒子識別
 - ⇒ 識別能力は、物質量に依存

ATIC: 22r.l. (~10⁴)

Fermi: 8.6r.l. (~10⁴)

CALET: 30r.l. (~10⁵)





AMS-02 の陽子除去

TRD: Transition Radiation Detector

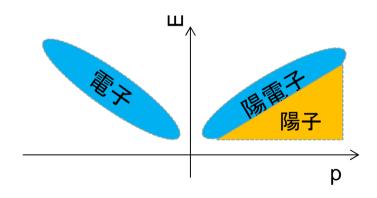
誘電率が異なる物質の境界を荷電粒子が通過する際、X線を放射する

発光量はγに比例

⇒ 高エネルギー領域では飽和するため、有効でなくなる

Tracker & ECAL

運動量pとシャワーエネルギーEの相関からハドロン成分を分離する(ハドロン成分のmfpは長い)



⇒陽子除去性能の上限は、運動量の測定上限で決まる

観測エネルギーの上限は~1TeV程度

陽子除去性能

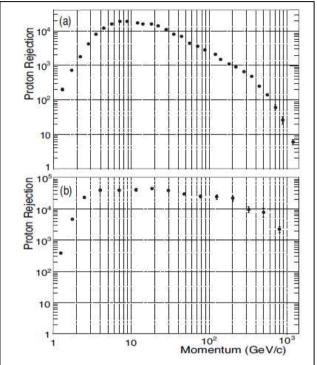
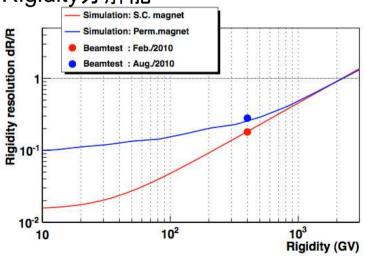


FIG. 1. (a) The proton rejection measured by the TRD as a function of track momentum at 90% selection efficiency for e[±]. (b) The measured proton rejection using the ECAL and the Tracker. For 90% e[±] ECAL selection efficiency, the measured proton rejection is ~10,000 for the combination of the ECAL and the Tracker in the momentum range 3–500 GeV/c, independent of the TRD.

Rigidity分解能

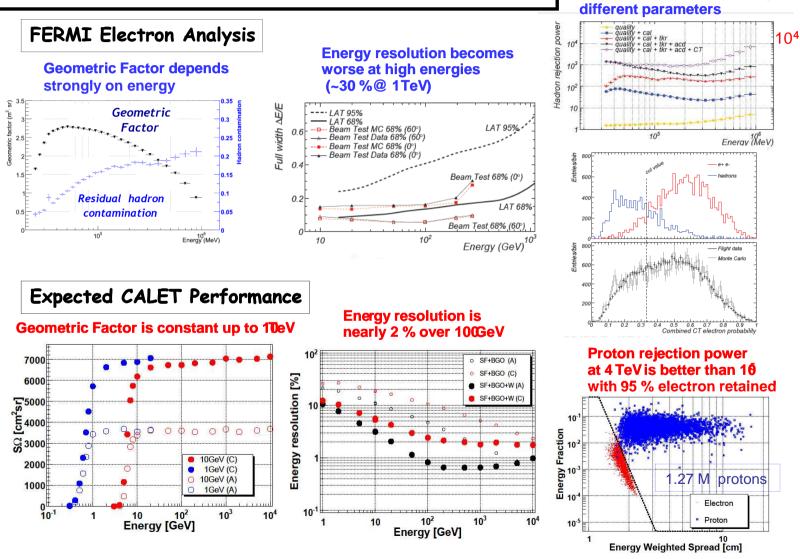


Fermi/LATとCALETの比較

Proton rejection power depends

fully on simulation by using

CALETは電子観測に最適化された装置であり、FERMI/LATが不可能なTeV領域の観測が可能であるだけでなく、TeV以下でもはるかに優れた性能をもつ。

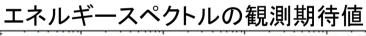


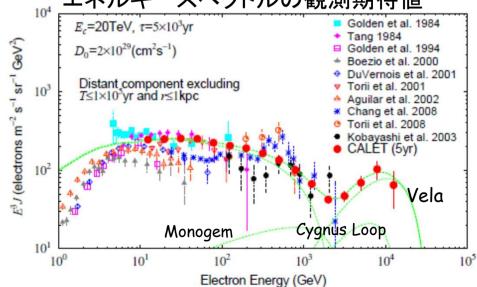
電子観測による近傍加速源探索

5年間の観測予測

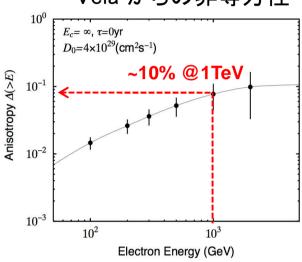
(Primary) Fermi + Hess (Vela) Kobayashi et al. 2004

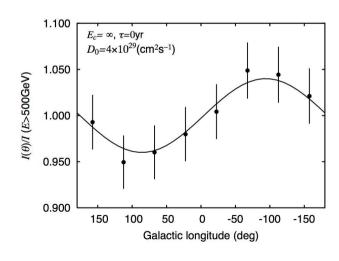
Energy[GeV]	Primary e-	e- from Vela
500-600	1168	154
600-800	1235	239
800-1000	501	168
1000-1500	546	270
1500-2000	146	134
2000-3000	99	134
3000-4000	23	51
4000-5000	7	23
5000-7000	5	22
7000-9000	1	7
>9000	0	3
>1000	827	644





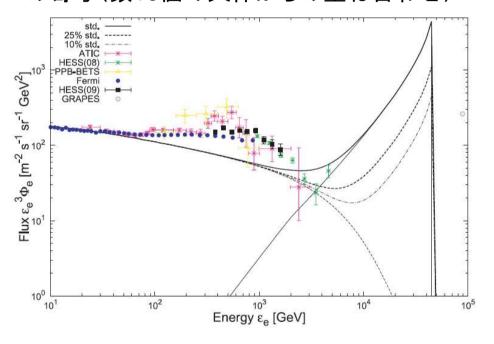
Vela からの非等方性



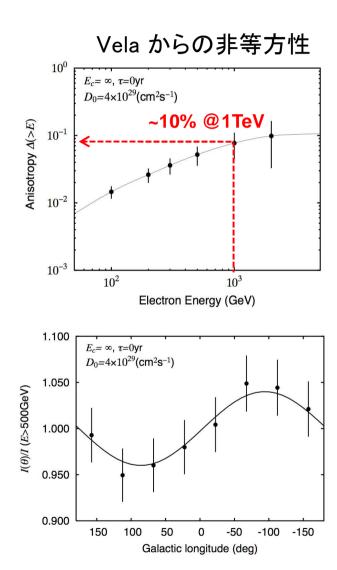


電子成分の異方性観測

Kisaka et al. 2011 TeV領域の電子成分として、近傍パルサーから の寄与(数10個の天体からの重ね合わせ)



異方性の有無からモデル制限が可能



プロトタイプ検出器による開発・性能評価

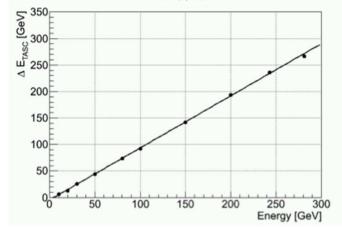
気球実験・加速器実験を通して、開発要素の技術実証、性能評価を実施

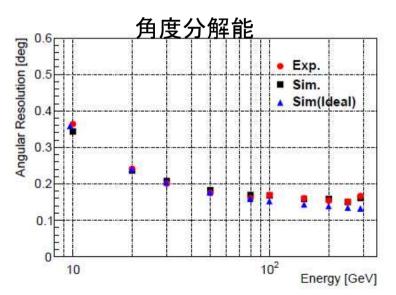
仄	ヅ夫映『加述奋夫映で進し€、囲	开
2006	気球実験(bCALET-1 @三陸)	
	½プロトタイプ検出器	
2008	加速器実験(東北大核理研)	
	GeV領域ガンマ線の観測性能	
2009	気球実験(bCALET-2 @大樹町)	1000
	½プロトタイプ検出器	
2010	加速器実験(CERN-SPS)	
	µ粒子、電子の観測性能	7.50
2011	加速器実験(HIMAC)	
	CHD, SciFiの電荷分解能	ER
2012	加速器実験(CERN-SPS)	- 5
	µ粒子、電子、陽子の観測性能	
2012	加速器実験(CERN-SPS)	4
	µ粒子、電子、陽子の観測性能	
	熱構造モデルによる性能検証	
2013	加速器実験(CERN-SPS)	
	原子核の観測性能	

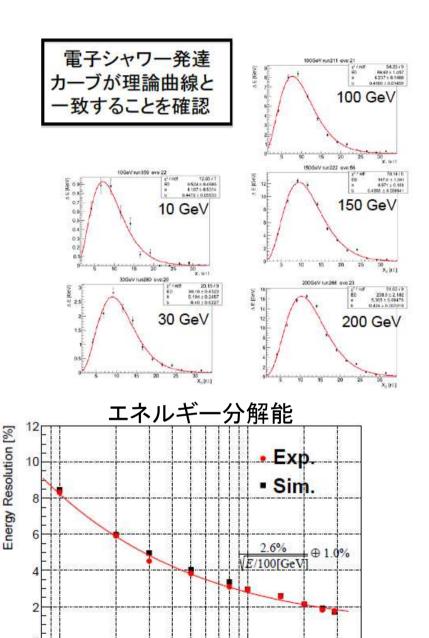


CERN実験の結果

ビームエネルギーと測定エネルギーの相関







10²

Energy [GeV]

シミュレーションが観測結果を再現することを確認できた

10

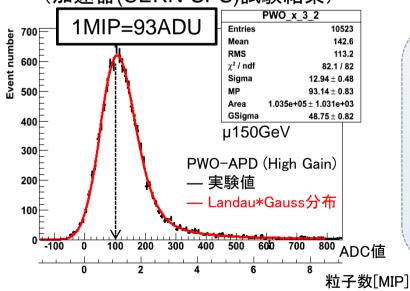
軌道上における検出器較正

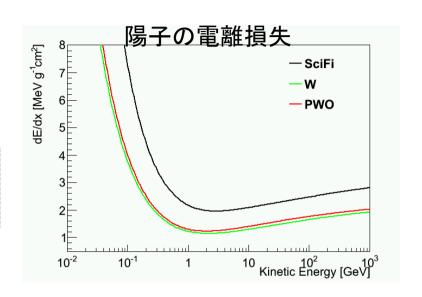
■ 軌道上における宇宙線陽子やHeの 最小電離粒子を利用して検出器較正を行う

最小電離粒子(MIP: Minimum Ionizing Particles)

一粒子が通過する際に落とす エネルギー損失量の最頻値を定義とする (例:TASCのシンチレータの1MIP~20MeV)

最小電離粒子のADC分布 (加速器(CERN-SPS)試験結果)



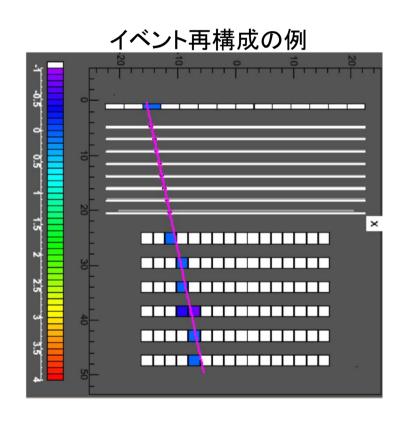


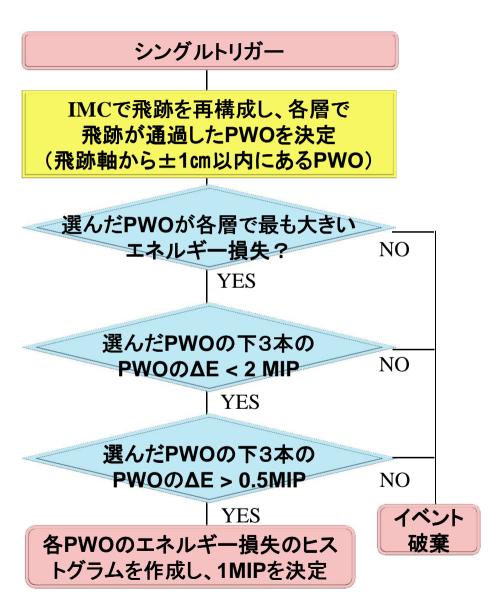
地上試験では、µ粒子の利用が効率的 (µ粒子の相互作用長が長いため)

ISS軌道上では陽子の最小電離粒子を利用ただし、陽子は検出器中でシャワーを引き起こすため、最小電離粒子の選別が必要 CALET:~1.3 m.f.p.

検出器較正に利用するイベント選別

- 検出器較正に利用できるイベント条件
 - ① 幾何条件を満たす(飛跡がPWOを通過)
 - ② 検出器中でシャワーを起こさない
 - ③ 検出器中で止まらない

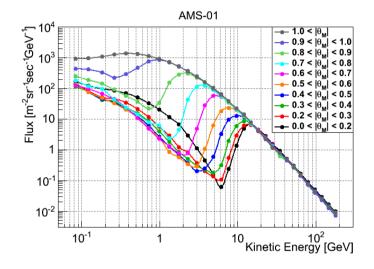


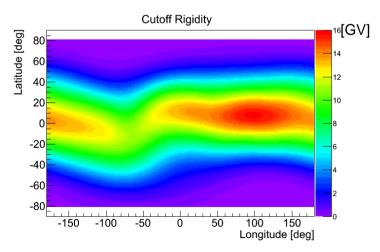


2013/12/17

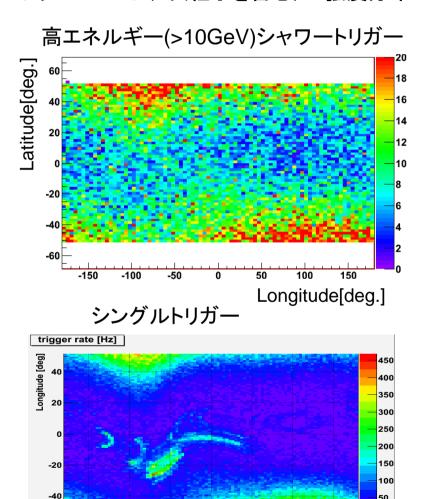
トリガーレート

陽子のエネルギースペクトル(AMS-01)





トリガーレート(2次粒子を含む)の強度分布



50

-150

-100

まとめ

- 宇宙線電子成分は寿命が短いことに由来して、近傍加速源 の影響がエネルギースペクトルに反映される
- CALETは電子観測に最適化した検出器である
 - 測定領域: 1GeV 20 TeV
 - エネルギー分解能 ~ 2% (>100GeV)
 - 陽子除去性能~105
- CALETの観測精度はシミュレーション計算や加速器実験で 検証を行っている
- 2014年度に打ち上げ予定

END